

# 市指定史跡

# アダドゥナー

## 石垣市指定史跡 アダドゥナーの概要

アダドゥナーは、宮良村の歴史に関わりの深い「下ヌ家敷（しむぬかく）」の範囲内において、古文書には、安多手井と記されています。下ヌ家敷というのは、海側に近い旧集落があった場所（宮良第四遺跡範囲内）を指し、現在の宮良公民館を中心とした北西側の集落とは区別されています。

この井戸は、垂直に深く掘り下げる掘り抜き井戸とは異なり、石灰岩の岩盤を削り、斜面上に40段の石段を築いて直接水際まで下りて汲むという、ウリカー（降り井戸）となっています。伝承によるとこの井戸は、宮良の下ヌ村創設の頃、神に願いを立てて水脈を掘り当てたと言われ、以来、神の水として崇められ、村の共同井戸としてたいせつにされてきました。アダドゥナーの願いは、正月及び六月の世願いと、村願いであるシィチィ（節祭）のマンカイ願いがあると、『宮良村誌』に記されています。

人々の生活、信仰と密接に関わりのある同井戸は、1980（昭和55）年10月31日に石垣市の指定史跡となりました。



## 明和大津波とアダドゥナー

1771（乾隆36、明和8）年に、この地を襲った明和大津波に関する伝承に、宮良のウリカー（降り井戸）に関するものがあります。その伝承によると、ウリカーは明和大津波で被害にあって埋もれてしまい、どこにあったのかもわからなくなってしまいましたが、霊力のある方が同地を示し、掘り返したところ、井戸が再建したということです。

明和大津波の被害状況を示した「大波之時各村之形行書」に、埋まってしまった井戸の名前は出てきませんが、地域の伝承では、その時のウリカーは、このアダドゥナーだと伝わっています。



## アダドゥナーを見学なさる皆さまへ

宮良西バス停付近から海側へ向かう道路に面して、アダドゥナーの説明版が設置されています。

周囲に駐車場はありません。その旨、ご了承ください。また、井戸の周囲には、集落の人々により柵がはられています。願行事が執り行われる、住民にとってたいせつな存在なので、柵を越えて進入しないようにしてください。

井戸に近接して、外本御嶽があります。ここも、重要な祭祀行事を行う聖地であり、部外者の立ち入りを禁止しています。祭祀行事が行われる期間中は、アダドゥナーの見学も制限される可能性があります。ご協力をお願いいたします。